

# 地域色出し落語競演

大阪の落語定席「天満天神繁昌亭」（大阪市北区）の夜席で異色の企画がシリーズ化されてつづいている。「四国ふるさと寄席」。独演会や一門の寄席が主流の夜席だが、ふるさとをくくりにして落語家が集まり、四国色を前面に出した企画。5月の第1弾「徳島VS香川編」に続き、11月末には「徳島VS愛媛編」があり、愛媛出身の若手落語家3人も出演した。

## 大阪「天満天神繁昌亭」 四国ふるさと寄席 盛況

NHK記者として徳島県で勤務経験がある「元徳島県民」の林家竹丸が発表。「以前、福岡県出身者がチームを組んで寄席をしたのを見て、四国出身の落語家は1県だけでは少ないが、まとまればおもしろい企画ができるのでは」と思いついた。先輩の徳島県阿南市出身の笑福亭学光がリーダー格となり、新企画がスタートした。第2弾、徳島から笑福亭

愛媛は若手3人 出身地話題も盛り工夫

学光、林家竹丸の2人。愛媛からは、林家染太（松山市出身、2000年林家染太

丸に入門）、桂三幸（松前町出身、02年桂三枝に入門）、露の紫（今治市出身、08年露の都に入門）の30代の若手3人が出演。笑福亭鶴瓶が「妻が松山市出身」という縁で特別出演し開場前から繁昌亭は長蛇の列。「満員御礼」となった。出演者は導入部の枕で出身地の話題を盛り込んだり、古典落語や創作落語に地元色を加え工夫を凝らした。5人が登場して愛媛と

徳島のお国自慢をし合うバラエティコーナーも。笑福亭鶴瓶は「妻から禁止さ



四国ふるさと寄席でお国自慢を繰り広げる愛媛、徳島出身の落語家たち＝11月27日、大阪市北区の天満天神繁昌亭

「以前、愛媛出身者で落語会をやる、と話をしていたが、集客力の面で難しかった」と話す林家染太は「四国で盛り上げようという企画に誘ってもらい大変

ありがたかった。ふるさとをテーマにする機会は少ないので、新たなおもしろさが創出できる」と話した。大阪の落語専用の定席として約60年ぶりに復活した繁昌亭はスタートから5年目に入った。林家竹丸は「後は新たな客層の開拓も必要で企画力が求められている。関西には四国出身者が多く『寄席は敷居が高い』『落語は難しそう』と感じている人にも四国とのつながりで来場してもらえ魅力ある新企画として考えた」と解説。来年4月には「徳島VS高知編」を予定しており笑福亭学光は「その後も4県選抜編など新たな企画を考案、四国ふるさと寄席を続けていきたい」と抱負を語った。

（奥村健）

芸  
能

weekly entertainment